

平成28年度 第1回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 平成28年7月7日(木) 午前10時～正午
2. 場 所 大和市役所 委員会室
3. 出席状況 委 員9名(深澤会長、小林委員、坂本委員、橋本委員、服部委員、伏見委員、星野委員、吉川委員、米屋委員)
事務局6名(文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興担当4名)
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - 1 開会
 - 2 報告事項
 - (1) 平成27年度 実績報告について
 - (2) 文化創造拠点(大和駅東側第4地区公益施設)進捗状況について
 - 3 審議・検討事項
 - (1) 大和市文化創造拠点運営審議会 委員選出について
 - 4 その他
 - 5 閉会
6. 会議資料
 - 大和市文化芸術振興基本計画[第2期]平成27年度実績報告
 - やまと芸術文化ホールの進捗状況について

【会議要旨】

1 開会

- 文化スポーツ部長より挨拶

2 報告事項

(1) 平成27年度 実績報告について

- 市から、「大和市文化芸術振興基本計画[第2期]平成27年度実績報告」について説明。

○意見交換

委 員：さまざまな事項を検討していくうえで、まずは実績報告を基に状況を把握することが重要になると考える。

実績数値が減少している項目に対して、どのように対応していくのかが気になっている。短歌・俳句・川柳は細やかな感情を表現する日本の大事な文化であるが、さくら文芸祭一般公募展の出品数が減りつつあるのは、絵画や写真などと比べると、来場者が見て受け取れる情報・感覚が少ないからではないだろうか。このような状況を改善するためにも、作品の解説や講評などの「鑑賞の視点」のようなものを添えるなど工夫することで、来場者にも分かりやすい展示となり、会場に足を運ぶためのきっかけとなるのではないか。

委 員：文化祭一般公募展(書・絵画・写真)と同時に開催することで、「書と短歌」など、新しい視点で作品を見ることができないのではないかと。また、短歌などの展示に箏の音楽を流すというような演出も考えられる。文化芸術の裾野を広げるためにも、参加しなくなるような仕掛けが必要だろう。

- 委員：同感である。今後の展示会のあり方として検討していく必要があるだろう。
市民が自分たちのまちの歴史的拠点を持つということはとても大切なことである。
文化財3施設については、さまざまな講座を実施するなど、積極的に活動していることは理解しているが、なかなか市民に認知されていないように感じる。恒久的な課題であると思うので、引き続き改善のための方策を検討していくべきと考えている。
- 委員：文化財に関しては、限られた方が熱心に通うというのが現状であるように感じる。
一般の方が何気なく立ち寄る文化創造拠点のギャラリーを活用して企画展を実施するなど、市民に市の文化財の重要性と歴史施設の存在を知ってもらう機会を積極的につくるのがまず必要なのではないか。
古くからある日本の文化が子どもたちから離れているように感じる。そのような講座などが開催されても、夏休みなどの期間限定のもので、その後は継続されない。小学校の授業や放課後児童クラブでの活動の中で学べる機会を設けるなど、長期的な視点で地域・学校が連携して取り組むべき課題ではないか。
- 委員：子どもが参加すれば、その保護者や友人が見に来る。先ほどのさくら文芸祭一般公募展も、子どもたちを巻き込み、発表の場を提供するのも良いのではないか。
- 委員：前回、美術鑑賞事業の視察で小学校を訪問した際に、廊下に子どもたちの俳句作品が掲示されていた。大変興味深い作品が多くあった。あの場だけで完結させてしまうのは実にもったいないと感じていた。学校と連携するのも一つの手段ではないか。
- 委員：文化芸術に親しむ市民を増やすためには、作品の見せ方とPRの工夫が必要と考える。
慈祿庵でのお茶会などでは、短冊を木に掛けて、庭を散策しながら作品などを見られるような見せ方を工夫していた。コミュニティバスやタクシーに、文化財3施設のイベントポスターなどを貼り出すのもPRの一つの方法と考える。個人的に大和市で大きく変わったと感じるのは、コミュニティバスのラッピングである。芸術作品が街中を走っているというのは、市の文化芸術の振興において大変意義があると感じている。
- 委員：PRの方法についての話題が中心になっているが、最近はインターネット、特にスマートフォンが急速に普及している。これまで実施したイベント等の情報発信として、それらを活用した例はあるか。
- 事務局：市の事業で、インターネットを活用した情報発信は、市のホームページが主であり、パソコンやスマートフォンで閲覧することは可能である。しかし、ホームページ上で公開されていても、そこにたどり着くまでがなかなか難しいという課題がある。
神奈川県が主体で進めているマグカル（マグネット・カルチャー）では文化の専門サイトが立ち上がっている。今後、そこに芸術文化ホール事業などの情報を掲載してもらうように働きかけていくことも検討している。
- 委員：おそらく、市内で実施されているイベントを知らないという方は多くいるのではないか。PRの手法は多くあるが、その中でも地域誌やラジオなど地元メディアを活用するというのも一つの手段ではないか。ホームページは見るようで意外と見られていないように感じる。
- 事務局：参加者数などの数値は指標として当然求められるものであるが、数値だけで文化芸術施策を評価できるものではないと考えている。今後も本質を見落とさないように取り組んでいきたい。
また、事業の効果を高めるためには、事業の魅力をいかに多くの人に伝えていくかが大変重要なポイントとなるので、既存のPRで足りていないようであれば、地域・学校との連携などについても検討していく必要があると感じている。

- 委員：このような実績数値で状況把握を行う場合、必ずしも右肩上がりだから良いというのではないと考える。イベントの来場者数であれば、その日の天候にも左右されるものであり、数字にとらわれすぎないように、気をつけなければならない。
- イベントの周知はどこでも悩みの種である。行政の広報には限界があるのではないかと。市民は、誰かの一押しがないとなかなかイベント等に足が向かないように感じる。人が参加しようとする一番の要因は、やはり「こんなに良かった」という個々の感想やエピソードではないだろうか。市のサポートのもと、市民が主体となって広報活動を行う体制を整えてはどうか。イベントをいかに周知していくかということにこそ、市民サポーターが必要なのではないかと。
- 委員：イベントの質や価値をきちんと見出すようにしなければいけない。イベント参加者が少ないということだけで、評価されてしまうということは避けなければならないと考える。このような数値は時代の流れに左右される面もあるため、過年度と比較することだけに注視しすぎないように注意しなければならない。
- 会長：実績報告の数値は行政への評価というより、市民の意識啓発の度合いと読み替えて捉えるべきなのではないかと考える。
- さくら文芸祭の一般公募展は、展示の際に、なぜこの作品が優れているのか、何が評価されたのかということフィードバックすることで、市民の意識も高まり、次につながるものになるのではないかと考える。これらすべてを行政が担うのは大変なので、市民にサポートを求めるのも良いのではないかと。
- 文化財3施設には、思わず長居したくなるような空間や魅力が乏しいように思う。市外には、雰囲気の良いレストラン等を併設し、魅力的な空間づくりを行っている美術館、博物館もあるので、参考にしたらどうか。
- 委員：市内の民間施設で古民家風喫茶を併設したところ、来館者がかなり増えたという話を聞いた。
- イベントに関しては告知が最も重要と考える。大和駅プロムナードで開催されている骨董市は、出店料の大半を広告費に充て、ラジオのCMなど、さまざまな媒体で宣伝をしている。市の事業がこれだけ多く実施されているにも関わらず、市民がそのことを知らないというのは大変もったいない。何とかPRする手段を検討していくべきではないかと。
- 委員：最近では、口コミサイトの評判を見て判断することが多い。文化イベントの口コミサイトのようなものが作れば効果的ではないか。負担も増えずにPRすることができるようになるかと考える。
- 事務局：新施設の公演が行われるときに、関連のイベントのチラシ等が市内外に広く配布されるので、そこで市の事業もPRできるよう、指定管理者に協力を依頼したいと考えている。特に市内の文化イベントを紹介するYAMATO ART 100のパンフレットを配布できれば、大和の文化を大きくPRできると考えている。
- 委員：先ほど言った小学校の俳句授業について、市内の学校が連携して実施しているものなのか。
- 事務局：複数の学校で個別に実施されているものと思われる。過去にさくら文芸祭一般公募展にクラス単位で出品があった時は、授業の時期と重なったためと思われる。
- 委員：市内には広報掲示板が数多く設置されてきており、文化イベントのポスターなど多くの情報が掲示されている。市民がそれを見てどのように感じとるかが重要に感じる。
- 会長：自治体の広報誌は多くの情報が掲載されており、読み手は流し読みしてしまうことが

懸念される。広報誌だけに頼りすぎるのは限界があるのではないかと感じる。

委員：興味のある人はもうすでに情報を知っている場合が多い。興味のない人にいかに知ってもらえるかが重要である。何かしらの仕掛けが必要だろう。

会長：さくら文芸祭一般公募展の会期中に審査委員による入賞作品等について講評をしてもらうシンポジウムを実施する企画も良いのではないかと。
会場はいずれ新施設に移るのか。

事務局：さくら文芸祭一般公募展の応募方法や展示方法については、見直しの必要があると感じている。会場については、新施設とすることも考えられるが、一方で市内のさまざまな地域で文化イベントが開催されることも文化芸術を振興するうえでは大切な視点と捉えているので、これらの内容を総合的に勘案して、会場を決めていきたいと思っている。

委員：YAMATO ART100のパフレットを見て実際にいくつかのイベントに参加した。大和の魅力を再発見することができ、大変有意義であった。
外国人に注目されてはじめて日本人がその魅力に気づくという事例もある。例えば、市内在住の外国人に大和の良いところを紹介してもらおうようなことがあっても良いかもしれない。

(2) 文化創造拠点（大和駅東側第4地区公益施設）進捗状況について

○市から、「やまと芸術文化ホールの進捗状況について」について説明。

○意見交換

委員：施設に対する市民の認知度を過去に調査したことはあるか。

事務局：調査実績はないが、今年度実施予定の市民アンケートの設問に加えてみても良いかもしれない。

3 審議・検討事項

(1) 大和市文化創造拠点運営審議会 委員選出について

○委員の互選により、服部委員が選出された。

4 その他

○委員任期が、8月1日をもって満了になることについて報告。

○市から、次回の開催日程について説明。

8月末の開催を予定している。調整の結果、8月31日（水）午前10時から開催することとなった。

5 閉会